

2018年3月期 第3四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

Q1 今後、単価上昇の余地がどれくらいあるのか教えてください。

- 運賃の改定時期は、法人のお客様ごとに異なります。
- 現在、交渉が完了した法人のお客様の運賃がすべて反映されているわけではありません。
- なお、今後も継続的に法人のお客様と交渉を行い、プライシングの適正化を進めます。

Q2 今後、人件費など大きな費用が発生する局面があれば教えてください。

- 中期経営計画「KAIKAKU 2019 for NEXT100」では「働き方改革」を経営の中心に据え、1,000億円の費用をかけて、社員の労働環境の改善と整備などへの取組みを進めています。その一環として、今後、アンカーキャストの体制構築など配達キャパシティ拡大に努めていきます。
- なお、期首にご説明した今期の「働き方改革」に係る費用の90億円は、概ね計画通りとなる予定です。

Q3 アンカーキャストの進捗状況を教えてください。

- 現在、一部のエリアにおいて、社員に対しアンカーキャスト人材を募っている状況です。
- 対象者への説明会なども順次進めており、来期に向け体制構築を本格化させていきます。

Q4 増加基調の委託費が適正な水準になるタイミングを教えてください。

- 現在、「働き方改革」を中心に据え、構造改革を進めていくことが最優先であり、費用が先行している状況です。
- 中期経営計画「KAIKAKU 2019 for NEXT100」の期間中に、アンカーキャストを始めとする体制を整えていきますが、配達キャパシティが拡大し、取扱数量が増え始めたタイミングで宅急便の配達に係る委託費は適正な水準になると考えています。

Q5 プライシングの考え方に変更はありませんか。

- これまでにご説明している考え方に変更はありません。
- 引き続き、お客様にご理解とご協力をいただきながら、荷物の数量、大きさ、不在率などの要素や、外部環境の変化に応じて変動する、サービス提供コストを踏まえた、適正なプライシングの実現に努めていきます。

以 上